

いじめ防止基本方針

吹田市立山田第三小学校

1. いじめは、「どの子どもにも、どの学校でも起こりうること」であり、いじめを受けた児童の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。以下、「いじめは絶対に許されない」学校を構築するため、「いじめの防止」「早期発見」「いじめに対する措置」等に関する基本方針を定める。
2. いじめを未然に防ぐため、次にあげる事項に努める。
 - ① 児童一人ひとりの尊厳が守られ、いじめに向かわせないための未然防止に、すべての教職員が組織的に継続的に取り組む。
 - (1) 日常的に児童の行動の様子を把握する。
 - (2) 様々な場面での児童の様子や欠席日数等を注視し、学校全体として情報を共有する。
 - (3) いじめ防止対策推進法に基づき、「いじめ防止対策委員会(兼 生活安全委員会)」を機能的に円滑に推進する。
※ 管理職・首席・生活指導担当者・各学年担当者・当該学年担任・養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・その他の関係者により構成する。
 - (4) いじめの防止等に関する年間計画を策定し、年度末には総括を行い、その計画の見直しを行う。(別紙1)
 - (5) 計画的にいじめ予防に関する校内研修を行う。
 - (6) 年間計画を策定・改訂する際、P T A・学校評議員に意見を求める。
 - ② いじめについての共通理解を図り、児童がいじめに向かわない態度・能力を育成するとともに、いじめが生まれる背景を把握し、自尊感情や自己肯定感を育み、児童自らがいじめについて学ぶ取組を進める。
 - (1) 教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育を充実する。
 - (2) 読書活動や体験活動等を推進し、幅広い社会体験や生活体験の機会を設ける。
 - (3) 言語活動を充実させ、各教科の中で児童のコミュニケーション能力を向上する。
 - (4) 児童会活動を活性化し、児童同士がつながり、仲間づくりをしやすいような環境を育む。
 - (5) ともに学び、ともに育つ教育環境づくりを進める。(共生教育)
 - (6) インターネット等で行われるいじめを防止し、効果的に対処することができるよう、児童への情報モラル教育および保護者への啓発活動を進める。(早期発見)
3. いじめを早期に確実に発見するため、次にあげる事項に努める。
 - ① 児童が示す小さな変化や危険信号を見逃さないよう積極的にいじめを認知するためのアンテナを高く保ち、早い段階から複数の教職員で的確に関わるとともに、暴力を伴わないいじめや、潜在化しやすいグループ内のいじめなどにも注意深く対応する。
 - (1) 日常の児童相互の人間関係を把握し、ふざけあいやけんかなどのささいな兆候も教職員間で共有する。

- (2) 学校生活アンケートを学期に1回実施し、いじめ事象に早期に対応する。
(アンケート結果は、全クラス分保存しておく)
 - (3) 教育相談日、大阪府電話相談窓口等、各種の教育相談機関の周知を図り、教育相談体制の充実に努める。
4. いじめを発見・通報した場合は、次にあげる事項に努める。
- ① 発見・通報を受けた場合は、特定の教職員で抱え込まず、速やかに当該学年または、生活指導担当者で対応するとともに、「いじめ防止対策委員会」に報告・相談する。また、被害児童を守り、加害児童の社会性の向上や人格の成長に主眼を置いた指導を行う。
 - (1) いじめと疑われる行為を発見した場合は、その行為を制止し、相談や訴えがあった場合は、被害児童および相談者の安全を確保しながら、複数体制で事態の把握に努める。その際の聞き取りにおいては、時系列で記録に残す。
 - (2) 事態の軽重に関わらず、早期に保護者へ事実関係を伝える。
 - (3) 被害児童に寄り添い、支える体制づくりを行い、必要に応じて加害児童を別室指導や出席停止とする。その際、加害児童の感情も汲み取りながら行為に関しては厳しく対応するが、謝罪し二度といじめを起こさないような気持ちを持たせる。
 - (4) 好ましい集団活動を取り戻し、新たな活動を踏み出すために、必要に応じて警察等関係諸機関の協力を得る。
 - (5) いじめを見ていた児童に対しても、自分の問題としてとらえるよう指導する。
 - (6) いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものと認められる場合には、市教育委員会と連携し、また警察署と相談して対処する。児童に重大な被害が生じる恐れがある時は、直ちに警察署に通報し、適切に援助を求める。
 - (7) 「組織的な対応の流れ」を策定し、早期解決に努める。
 - ② 重大事態が発生した場合は、調査チームが初動調査から実態の把握・分析等を一括して行うとともに、市教育委員会に報告し、事態の早期解決に努める。
 - (1) いじめにより被害児童に重大な被害が生じた疑いがある場合や、いじめにより欠席を余儀なくされている疑いがある場合等は、調査チームによる調査を行い、事態の早期解決に取り組む。
 - (2) 調査チームは、被害・加害児童からの聴き取りや質問紙によるアンケート調査の実施等を速やかに行い、その調査結果を被害児童およびその保護者に対して報告するとともに、改めて、要望や意見を十分に聴取する。
 - (3) 必要に応じて、被害児童およびその保護者の所見を添え、市教育委員会に報告する。
5. この基本方針は、取組の進行状況の確認や、課題解決に至っていないケースの検証等、年度ごとに検討を行い、児童の実態に応じて計画を見直す。

(別紙1)

いじめ防止等に関する年間計画				
	学校	児童生徒	保護者	地域・その他
4月		学級懇談会		
5月	校内研修 (いじめ予防)		授業参観	
			家庭訪問等	学校評議会 青少年対策委員会
6月		学校生活アンケート①		地域教育協議会 PTA総会
7月	いじめの件数調査の 学期末集計 点検・検証		日曜参観	
			プール参観	
8月	校内研修 (いじめ予防)			
9月	いじめ予防授業		運動会	
10月		学校生活アンケート②		学校評議会
11月		個人懇談会	音楽会	
12月	学期末集計 点検・検証			オープンスクール
1月				
2月	学年末集計 点検・検証	学校生活アンケート③		学校評議会 地域教育協議会
		学級懇談会	授業参観	PTA総会
3月	年度末点検・検証			